



東日本大震災 被災者支援 北海道民医連ニュース

2011.4.13

岩手・福島から函館に避難した方を訪問

たくさんの相談・悩み・不安をお聞きしました

函館稜北病院

12日、高橋総看護師長と青木事務次長で、被災地から函館に避難してきた2世帯（岩手と福島）の訪問に行ってきました。以下、青木次長からの報告です。

函館市から11世帯の避難者名簿をいただき、事前に連絡をとり訪問しました。訪問できた2世帯とも、難を逃れて着の身着のままで避難をしてきた、1か月間の生活を語ってくれました。

身近に、何でも相談できる人がいない

岩手県三陸から避難してきた方は、「目の前で働いていた工場が流されていった。家族がいた家も流されて、家族と会えるまでの2日間は、いたたまれなかった。今後のことを考えると地元に戻るか函館に残るのか…。地元の情報は、携帯で友人から聞いているけれどそれだけ。不安です」と語ってくれました。現在は道営住宅で生活しています。生活用品は、道営住宅の管理人さんと隣人の方の支援で最低限のものをそろえたそうです。「身近に話せる人がいない。何でも相談できる人がいない。手続きなどを自分で行ってきたけれど（対応マニュアルなど）徹底されていない行政機関も多いように感じました」とのこと。血圧を測定し、残薬も4日しかないということで近くの医療機関の紹介などを行いました。「水道の蛇口から水がでる。そのことのありがたさを知りました」と語っていました。

土地勘がないこと、近所に話せる人がいないことが一番の不安

福島県から避難してきた方は、「地震がおき、テレビも止り、真っ暗になったとたん、情報も途絶えて何が起こったのか、わからなかった。自分のところだけ？と思ったが、物凄い震災なんだと知ったのは、2日後の避難途中のラジオからでした」と話されました。原発から2, 3 kmのところに住んでいた方です。就学前の子供と保育園の子供を抱え親子4人で避難したときは「1週間も経てば家に戻れるだろうと。だから最低限の持ち物で、知人の家に身を寄せたが、すぐには福島に戻れないと思い、せめて子供の入学式に間に合わせたい」と函館の親戚を頼り、現在市営住宅に入居しています。「保険証がないので、子供が調子悪くなったらどうしようと心配していた。小学校には先日無事に入学できましたが、下の子が保育園に通園しなくなったら、調子が悪い。幼稚園に行かせようと（現在就労していないので）、市役所から幼稚園の一覧はもらったんだけど、土地勘がないので、どこが近いのかわからなくて困っていました。車がないので、行事に親も参加できるように徒歩でいけるところがいいんですけどね」小児科の医療機関の紹介や幼稚園などへの距離を話し、「近くに行ける歯科は？」など生活に密着した質問がいろいろ出されました。「土地勘がないことと、近所に話せる人がいないことが、一番の不安」とのことでした。

＜今後も、継続して訪問していくことにしています＞

オホーツク勤医協で報告会

12日昼休みの報告会に40人が参加。支援参加者の話を聞きながら、「私たちにできる支援活動を続けていこう」と確認しました。

オホーツク勤医協社保平和ニュース

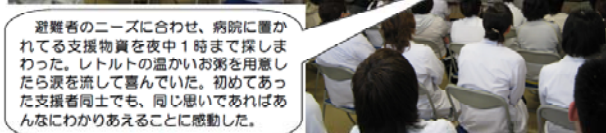
2011年4月12日
院内社保平和事務局

東日本大震災救援活動

12日、加藤さん・佐久間さん 支援報告会開催
被災地での奮闘に職員40名が聞き入りました！



書いて4日後ようやくガスの供給が回復した。これまでこんな経験はなかったが、ひとつガスが回復しただけでそこにいる職員・支援者みんなで喜び抱きしめあった！ここでは語りつくせない多くのことを学ばせてもらいました。



避難者のニーズに合わせて、病院に置かれてる支援物資を夜中1時まで探しまわった。レトルトの温かいお粥を用意したら涙を流して喜んでた。初めてあった支援者同士でも、同じ思いであればみんなにわかりあえることに感動した。



私たちにできる支援を継続・参加していきましょう！

- ・街頭宣伝救援募金活動
- ・ジャンボリーチャリティーランチ（13日が最後！）